

2017年4月19日

電通、雑誌記事データをマイクロコンテンツに自動変換・配信する新サービス 「マガポート記事サービス」の提供を開始

株式会社電通（本社：東京都港区、社長：山本 敏博）は、運営する電子雑誌業務支援システム「Magaport」（マガポート）※1 内の新サービスとして、紙の雑誌を想定して作られた誌面 PDF データをテキストや画像単位のマイクロコンテンツ※2 に自動変換し、企業のオウンドメディア、ニュースサイト、電子書店などへの配信を可能とする「マガポート記事サービス」の提供を本日より開始します。これは、「Magaport」の運営で協業する株式会社富士山マガジンサービス（本社：東京都渋谷区、社長：西野 伸一郎）が開発したマイクロコンテンツ生成・管理システム「fujisan 記事抽出システム」を独占的に活用することで実現したものです。

キュレーションメディアなどによる虚偽報道が社会問題化したことを受け、改めて雑誌出版社の事実確認に基づく責任編集記事への信頼や期待が高まっています。しかし、紙媒体用に作成された記事データをニュースサイトやアプリ、企業ウェブサイトなどで活用しようとしても、編集可能なデータ変換に大きな労力とコストが発生してしまうという課題があり、転用が進んでいませんでした。

こうした状況を踏まえ、「マガポート記事サービス」では、富士山マガジンサービスが開発した最新の AI 技術を導入することで、記事データを各種電子媒体で広く扱えるデータ形式に自動変換することを可能にしました。これにより、雑誌発のコンテンツビジネスの拡大が期待されます。

また、既に「Magaport」を利用し電子雑誌を発行する出版各社にとっては、本サービスを追加利用することにより、これまでどおり誌面 PDF データを入稿するだけでテキスト・画像・文字サイズ・色・レイアウトなどをマイクロコンテンツ化することができ、併せて労力の大幅なダウンにもつなげることができます。記事データの多方面での利活用が進めば、出版各社にとっての更なる収益機会の拡大にもつながっていくことが期待されます。

今後も電通と富士山マガジンサービスは本サービスの活用を進め、記事単位の閲覧情報に基づいたターゲット設定などによる広告テクノロジー商品の開発、自然言語処理技術に基づく要約などウェブ配信に適した自動編集機能の開発、記事検索やレコメンデーションに関するサービスの提供といった新たなビジネス展開を推進していきます。

-
- ※1 出版社が複数の電子書店向けに、雑誌コンテンツの入稿・販売管理・広告管理を一元的に行える電通の電子雑誌業務支援システム。国内出版社約 150 社 1,000 誌以上にシステム提供を行っており、国内最大級の規模を誇る。
 - ※2 紙の雑誌を想定した誌面 PDF データは、レイアウトが固定され、それ以上の編集加工が難しいため、ウェブサイトやスマホアプリへの転用には適さない。そこで、PDF データから汎用性の高い状態に変換されたテキストや画像単位の各種データを「マイクロコンテンツ」と呼ぶ。

<富士山マガジンサービスの会社概要>

会 社 名：株式会社富士山マガジンサービス（東証マザーズ：3138）

URL：http://www.fujisan.co.jp/

所 在 地：東京都渋谷区南平台町 16-11-8F

代 表 者：西野 伸一郎（代表取締役社長）

設立年月日：2002年7月12日

資 本 金：25,996 万円（2016年12月末日時点）

従 業 員 数：55 名（2016年12月末日時点）

事 業 内 容：海外雑誌含め全 10,000 タイトル以上の雑誌を取り扱っているオンライン書店「／～\Fujisan.co.jp」を運営。紙、デジタル雑誌の両方を取り扱っており、雑誌専門サイトとしては日本最大規模。また、「カバーガール大賞」に協力しています。

以 上

【本リリースに関する問い合わせ先】

株式会社電通 コーポレートコミュニケーション局 国内広報部
溪、竹村 TEL：03-6216-8041